序

本書第2版の刊行は2019年にさかのぼる．それ以降，日本の社会保障制度は，団塊の世代が75歳以上となる「2025年問題」を見据え，医療・介護の両領域で着実に改革が進められてきた．これらの改革は，急増する75歳以上人口に対し，医療・介護の需要を適切に抑制しつつ，地域で生活を支える体制を維持することを目的としており，社会保障制度の基盤強化として位置づけられている．

こうした制度改革は，地域リハビリテーションの実践に直接的な影響を及ぼし，セラピストに求められる役割を大きく変容させている．こうした背景を踏まえ，第3版では2019年以降の社会保障制度の変化を反映し，地域リハビリテーションの構成を見直した．制度改革と実践の進展を踏まえて全体を再点検し，内容の刷新を図っている．以下，各章の主な特徴と改訂のポイントを紹介する．

第1章では，地域リハビリテーションの基本概念を再整理し，地域包括ケアの深化に伴い，専門職が地域で果たすべき機能をより明確に位置づけている．第2章では，社会保障制度の最新動向を反映し，地域リハビリテーションに関わる制度・法規をアップデートした．制度改革が現場の実践にどのような影響を及ぼすかを理解できる構成となっている．第3章では，住環境整備と福祉用具の活用について，地域生活を支える視点から整理し，生活機能の維持向上に向けた環境調整の重要性を具体的に示している．第4章では，地域におけるリスクマネジメントを扱い，国家試験出題基準に沿って「感染予防・感染対策」の内容が新たに加わった．地域支援における安全管理の基礎を学べる内容となっている．第5章では，地域リハビリテーションのプロセスを体系化し，MTDLP（生活行為向上マネジメント）の解説を拡充した．多職種協働の実践を理解するうえで重要な章となっている．第6章「地域リハビリテーションの実際」では，理学療法・作業療法の各領域における実践を具体的に示している．一部体裁を統一することで，学生や若手療法士が現場の姿をより明確にイメージできる構成とした．第7章では，予防分野のリハビリテーションを取り上げ，サルコペニア，認知症，転倒予防，作業を通じた健康支援，生きがい形成など，多様な予防アプローチを網羅した．地域で求められる予防的支援の幅広さを理解できる内容となっている．第8章では，行政における療法士の役割を整理し，地域づくりや政策形成に関わる専門職の視点が提示されている．地域リハの発展に行政との連携が不可欠であることを示す章である．第9章では，地域の防災と災害支援を扱い，災害時のリハビリテーションの重要性と，平時からの備えの視点がまとめられている．近年の災害対応の知見を踏まえた内容となっている．第10章は新設章として，地域リハビリテーションの枠組みの中で産業領域への支援需要が増大している現状を踏まえ，理学療法・作業療法の産業分野における役割を体系的に整理

した．働く人々の健康維持，職場復帰支援，人間工学的改善など，産業リハビリテーションの基礎的知見を学生にも理解しやすい形で示されている．さらに巻末コラムでは，認知症ケアパスと初期集中支援チームの実際を取り上げ，地域における認知症支援の最新動向が簡潔にまとめられている．

以上のように，第3版では制度改革，予防領域の拡充，産業分野の新規章など，地域リハビリテーションの現在を反映した内容へと大きく進化を遂げた．地域で生活する人々を支えるために必要な視点と実践を，より立体的に学べる構成となっている．本書を有効に役立てていただければ幸いである．

2026年10月

重森健太
横井賀津志